

## 2. 座談会の記録（文字に網掛けがあるのは、DVD<sup>1</sup>に収録されている発言部分）

### （1）全体ディスカッション（前半）

#### ◇『あなたは何人（なにじん）ですか』

林：「あなたは何人ですか」。いきなりすみません。まず手を挙げてもらいます。

林：日本での生活が長くて、日本語しか話せなくて、ポルトガル語は全然話せません。中学生から高校生のときには、自分は日本人だと思って、ブラジル人であることを…なんで自分はブラジル人なんだろう、正直日本人の顔をしているのにブラジル人と言われなければならないんだろう、というのがあって拒否してたんだけど、最近大学に入って移民について勉強したり、自分のおじいちゃん、おばあちゃんのことについて勉強したり、いまの浜松について勉強すると、自分はブラジル人だと再確認しました。いまではブラジル人であることを誇りに思っています。

タテベ：どっちかと聞かれると、どっちもだなとすごく思う。見た目や国籍はブラジルだけど、小さい頃からずっと日本で育ってきて、友達もほとんど日本人だし、日本語で話してるし、それなのにどうしてブラジル人なんだろうって思ってた。やっぱりブラジル人の友達とか作らないようにしてたし、全部避けてきたけど、大学に入ると視野が広がるのか分からないけど、ブラジル人の友達とかもできて、みんな「かっこいいね」って言うてるんですよ。それで前向きに考えられるようになって…どっちも。なんだろう、選べない。自分にとってはどっちも大切だから。ブラジル人でもいたいし、日本人でもいたいし、気持ち的には。だからどっちも手を挙げられなかったです。難しい質問だなってすごく思います。

金城：私は一応ブラジル人に手を挙げたんですけど…。私も小さい時からずっと日本で暮らしていて、日本の文化にしか触れていない状態なので、最初小さいときはなんで私だけ名前がカタカナで、みんなと名前の雰囲気が違うんだろうとかは思ったりしてました。小学校あがってからは、あんまり気にならなくなったというか、自然と「あ、自分ブラジル人なんだな」っていう意識が生まれて、それで今でも「何人ですか？」って聞かれたらすぐ「ブラジル人です」って言います。でも、正直「ブラジル人です」って言ったあと考えると、「ブラジルの文化って何？」って聞かれてもよく分からないし、「ブラジルに行ったことある？」とか「何覚えてる？」って言われても覚えてることはそんなにないし。でもやっぱり自分の中の意識としてはブラジル人ということのを大事にしたい。でも日本の文化を知っているから、日本のことも大事にしたいと思っています。

米須：僕は日本人の方に手を挙げたんですけど、国籍とか顔とかブラジルなんですけど、生まれたときからずっと日本にいて、友達とかも日本人が多くて、一応ブラジル人もいたんですけど、主には日

<sup>1</sup> この座談会の全貌は、学生実行委員会スタッフ（動画班）によって撮影された。実行委員会はその映像記録をもとに座談会の様子を伝える 25 分間の DVD を作成し、2008 年 10 月 3 日から 13 日にかけて静岡文化芸術大学で開催された移民パネル写真展にて他の 2 つの交流イベントの記録と共にエンドレスで上映した。この座談会の記録に対しては、来場者アンケートでも大きな反響が寄せられた。

なお座談会 DVD の学外貸出も可能である。ただしその場合、条件について調整を図る必要があるので、ご希望の方は電子メールにて以下のアドレスまでご連絡をいただきたい。

〒430-8533 浜松市中区中央 2 丁目 1 - 1

静岡文化芸術大学 池上重弘 (E-mail: [ikegami@suac.ac.jp](mailto:ikegami@suac.ac.jp))

本人と遊んだりしゃべったり。それで意識的には日本人ですね。難しいですね。

林：自分がブラジル人だ、って思うときはない？

米須：書類とか見てみると、なんか違いますけど、でもとくにはピンとこないですね。日本人と同じようにいるので…。

吉田：私はブラジル人の方に手を挙げたんですけど、難しいですね、この質問は。時々、日本人だなんて。ブラジル人の中にいて、その人たちが日本語がしゃべれなくて、「ああ、やっぱり日本人だな」って感じることもあるし、日本の学校に行っていて、テストとかも難しいのがあったり漢字とかも全然できないときは「ああ、私やっぱりブラジル人だな」って感じることもあるんですよ。やっぱりこうやってブラジル人の顔してるし。この前もお店とか行って買い物とか行ったら「日本語しゃべれるんだ」って言われて。日本人かな、ブラジル人かな？みたいな。やっぱり家族ともポルトガル語でしゃべるし、ブラジルの文化の方が私の人生に影響してるかなと思うので、一応ブラジル人に手を挙げました。

林：僕とするとそれはすごくうらやましいのがあるんだよね。僕は生れてからずっと日本だから、今さらブラジル人とかの親戚の輪の中に入っても黙っちゃって、何もできないまんま「早く帰りたいな」ってなりますね。

吉田：あまりよくわかんない…。「ブラジルに何回行ったことがある？」って聞かれても数えきれない、っていうか忘れたほどで。半分半分ブラジルに生きて日本に生きて…。

権藤：私はブラジル人の方に手をあげたんですけど、小学校も中学校もロッカーに貼ってあるシールとか全部ローマ字で、みんな漢字の中で名簿とかでも浮くんですよ。でも、まわりのみんなは普通に接してくれるし、自分がブラジル人で困ったこととかもないし。親の知りあいの家とか行っても、みんな周りはポルトガル語しゃべるから、生活っていうか学校とかでは自分は日本人かなって思うけど、家とか国籍とかを考えると自分はブラジル人かなって思う。

広瀬：一応ブラジル人の方に手を挙げたんですけど、前は日本人だなんて思ってたところがあって、親がそれじゃあダメだなんて言って、2、3回ブラジルの方に旅行とか遊びで行ってからやっぱりブラジル人だなんて思いはじめたのと、日本が他のチーム、外国とかとやるときは日本を応援するんだけど、日本対ブラジル、サッカーとかバレーとか闘ったりすると必ずブラジルを応援するっていう。なのでブラジルの方に手を挙げました。

金川：親もブラジル人だし、普通に生活しててもブラジル人としゃべることが多いし、日本で暮らしてる方が長いけど、やっぱりブラジル人であることに誇りを持ちたい。で、ブラジル人の方に手を挙げました。

田中：今まで小さいころから学校に通ってて、自分何人かってあまり気にしたことがなくて、それほど周りの人たちが暖かったから、そういう違いとかも感じなくてこれたかな、っていうのもあるんですけど、喧嘩したときとか、「ブラジル人が」とか言われたことあって、そういう時に、やっぱり自分は顔もみんなとは違うし、絶対にそういう国っていうので…とかの違いで、やっぱり違うっていう気はするけど、結局は国籍もブラジル生まれだし、ブラジル人であるっていうのに非はなくて、みんなもそれで自分の存在を認めてくれてるなっていう感じもするので、普通に言われても「ブラジル人です」って答えられます。

中道：私もブラジル人に手を挙げたんですけど、家でも家族とかみんなポルトガル語しかしゃべれなく

て、日本語はあいさつ程度しか出来なくて、学校以外は全部ポルトガル語でしゃべってるんですよ。関わりも、ブラジル人と関わりが多くて、ほとんどブラジル人と関わってるのでブラジル人に手を挙げました。

内田：僕もブラジル人に手を挙げたんですけど、やっぱりみんなの意見を聞いて、僕もどっちかなって。タテベさんが言うようにどっちも選べないっていうような…。家族構成を見てみると、自分の先祖から見るとブラジルに住んでた人たちの血が、自分の家族構成の中にはなくて、日本の血しかないから、そういういろんな面で考えると日本人じゃないかな、って思う。

林：そうだよね。だって、ただ 100 年前の僕たちの先祖が日本からブラジルに行って、そのまま日本人と日本人で結婚して、それが帰ってきて、そしたらブラジル人になる。そうすると、それが国籍の違いって難しいよね。

タテベ：基準とかって難しくないですか？自分何人だろうって。やっぱ国的に言ったらブラジルとかだと、そこ言われたらみんなブラジル人だけど、気持ちの面だとやっぱ違う人とかもいるかもしれないし。どういう基準で決めてるんだろう、みんな。やっぱ自分の気持ちですか？

米須：はい。

タテベ：育った環境とかもあると思うし。私の場合だと、ずっとほとんど日本の文化に触れてて、家帰ってもそんなあんまりブラジル文化とかもなくて。たまにお父さんの仕事、お母さんの仕事に付いて行くと、そこはもうほんとにブラジル人コミュニティで、ブラジル一色で。そこ行くとすごくブラジルを感じるけど、それ以外はずっと日本だから。そういう環境の中で育ったからかもしれないけど、環境が大きかったと思う。自分がどっちかっていうとまだ日本人っていう意識のほうが強いから。なんだろう…難しい。

#### ◇ブラジル人の習慣について

林：それじゃあ、簡単にこういう場合のシチュエーションの時に自分はどう思ってたっていうのがあるんだけど、これで結構分かると思うんだけど。よくブラジル人って、すごい街で抱き合ったりしてるじゃんね。それを見かけたときってどう思う？

権藤：普通…（うなずく）

林：普通に思う？

米須：あっついなーって思いますね。やっぱりブラジル人…普通の純血のブラジル人で、すごいなって思いますね。

林：でも、俺の場合だと、こんなところでそんなことするなよとか思っちゃう。から、そういう時やっぱり俺はブラジル人じゃないかなって思っちゃう。日本人のみんなと一緒にわーって言っちゃうタイプかな。みんなはどうなの？

内田：ブラジル人はそういう相手に対する…言葉じゃなくてやっぱり行動に示すから、ブラジル人らしいところはあるなって思う。

タテベ：やっぱ人前でやるなよ、とはすごく思うけど。

金城：家庭にもよるよね。やっぱりちょっと見てて恥ずかしいなってのと、なんかすごくラブラブなんだなっていうのと。

米須：まあ、できれば場所は選んでほしいですね。できれば夜の公園とかでやってほしいです。

権藤：親とか知り合いとかもみんなそんな感じだから、何とも思わないです。

タテベ：どう？あんまり気にならない？

中川：普通。

タテベ：やっぱり違うんだね。

#### ◇考えごとをするときの言語

タテベ：考えごとするときって何語で考える？頭の中で。

米須：日本語です。

吉田：場合による、私は。いまは分けられないから言えないけど。「こいつバカだな」って言うときは日本語。他はどうだろう。自分が決断とかとるときはポルトガル語かな。やっぱり分からない、場合による。

タテベ：両方使ってる？

吉田：独り言のときは日本語。ポルトガル語は全然。

林：切り替えれるってすごいよね。何語で考えてる？

中道：両方です。

林：両方ってどうやって考えてる？

タテベ：不思議な感覚。

金城：家でしゃべってるときはポルトガル語で、友達と話してるときは日本語で考えるとかっていうそういう感じ？

中道：考えることについて、よる。いろいろ違ってきます。

林：切り替えて、やってみたいな。みんな緊張してるね。どんどんしゃべっていいよ。

#### ◇“外人”“外国人”と言われることについて

金城：“外人”とか“外国人”とかって呼ばれると思うんですけど、そういうのに抵抗を感じたりしますか？

吉田：私一回経験したことがあります、それで。友達が「学校に外人がいて」とか言って。「はあ？外人ってなに」って。悪口言ってたんですよ、「外人で嫌だよ」とかって。「私も外人なんだけど、その子と一緒にしないで」みたいな。それで言い合いになったことがあります。やっぱり外人で言葉聞くとすごく嫌い。

金城：「外人」って言われるのと「外国人」って言われるのって、ちょっとニュアンス違うよね。

吉田：そう。外国人は別にいいんですけど、外人だと嫌なことばっかしてる人たちみたい。

林：俺が小学校6年生のときの担任の先生が、“外人”と“外国人”の違いを教えてくれたんだけど、外国人は簡単に言うと外の国の人、違う外国から来てる人。でも外人はその人。もう自分たちの仲間じゃない人っていう意味って教えられて。それから外人って簡単に言う人はあんまり好きじゃないな。

金城：私自身もやっぱり「外人さー」って言われると「え、私もそうなんだけど」って言うとか「ごめん、ごめん」って訂正してくれる子と「ふーん」っていう人とかいて、ちょっとやだなって。

米須：言われたら言われたで、「じゃあ日本人は」って返しますけど。逆に「じゃあ日本人はどうなんで

すか」みたいな。

金城：反論したいとは思わないんだけど、言われたくない。

タテベ：私にも言えない。「あの外人ちょっとやだよね」みたいな感じで話しても、その話してる輪の中に自分がいても、言えないです。「ちょっと」みたいなのは…。聞いちゃう。言えないよね。やっぱりみんな同じ輪のなかに自分一人だけ違う。でもやだよね、外人って言われるのは。よく「外国から来られた方ですか？」ってすごい感じの言い方だけど、「外人さんですか」って言われるとちょっと…。

林：なんか一番傷つくのは「ブラジル帰れ」っていうのが一番傷つく。それを俺小学校の時に何回か言われた記憶がある。そのたびに大げんかだけど。

タテベ：言われてどう思う？「帰れ」って言われて。

米須：日本に生まれたから帰りようがないですね。

タテベ：どこに？って感じ。

林：その人たちは、たぶん何も考えずにしゃべってると思うけど、こっちからしたらどこに帰ればいいのか分からないし、帰ったところで何もできないから。

金川：日本と同じくらいブラジルが好きだから帰ってもいいけど、やっぱり日本が好きだからいたいって思う。

吉田：やっぱり日本って安全って気がしない？ブラジルと比べると。別にブラジルを悪い国って言わないけど、家族がいたりするから帰りたいって気持ちがあるけど、やっぱり日本って安全っていうか、この暮らしに慣れてるから、ブラジルに行くとは分からない、どうなるか。

林：俺が中学、高校の時に思ってたのは、日本のゲームとか好きだし漫画とか好きだし、ブラジルに帰ったらこれなくなるのかよ、って。向こうに何が待ってるんだって思っちゃう。

米須：日本のアニメとか好きなんで、ブラジルに行っちゃうと絵とかブラジルっぽいんですよね。なんで日本のほうが…。

林：「ブラジル人だと思います」って手を挙げた人で、こういうときやっぱり日本人なんだなって思うときとか…。

吉田：友達とかで、よくブラジル人と出かけるんですけど、ゴミ捨てる時、道路に「絶対それやっちゃだめ」って言う、私。昨日いたんですよ、マックシェイク飲んで「これ捨ててきて一緒に」って自分のとってって、「はい、分かったよ」って言って、ぽーいって。「おーいーダメだよ」みたいな。そのときに友だちがいて、「日本の学校行くとそうなるよね、みんな絶対捨てないよね」って。そういう時「絶対だめ、捨てちゃダメ、そこにゴミ箱あるだろ」って。

林：ゴミ捨て、なんなんだろうねそれは。何の違いだろうな…。

金城：やっぱりブラジル人が、っていうわけじゃないんですけど、日本の学校で掃除とかって結構するじゃないですか。だから、掃除がいかにもめんどくさいかってことも分かってるから、捨てないとかっていうのか分からないんですけど。私もやっぱり誰かポイって捨ててるの見て「あーちょっと捨てちゃダメだよ」って。

吉田：日本ではリサイクルのこととか、よく教えてくれるんですよ、学校で。ブラジルはあんまりリサイクルの話とかって出てこないけど。3C<sup>2</sup>とか。

---

<sup>2</sup> おそらく 3R の間違い：Reduce リデュース、Reuse リユース、Recycle リサイクル。

金城：私もブラジル人学校通ってた時も、授業でそういう関係のことしたっていう覚えはほんとにちょっとしかない。こういう制度とか、こういうリサイクルもできますよ、っていうのしか教えてもらえなかった。だからそういう意識の違いとかってどっかであるのかなって思う。

林：じゃあ、とりあえず今回のテーマについては答えが出ないと思うんですけど、今後いろいろ考えることがあると思うので、今日 30 分間の話を思い出して、自分が何人ですか、とか悩んでみてください。もうずっと考えることだと思うから。

#### ◇帰国・帰化について

林：じゃあ、次のテーマに行きます。「帰国・帰化について」です。制度的な話をする、例えばいま日本人になってもブラジル国籍はなくなる。法律上のしくみがあって、ちょっと矛盾があって、日本の国籍をとっても結局は、ブラジルの国籍はなくなるんだよ。だから、日本人とブラジル人両方なれる。簡単にいうと、日本は日本国籍しか認めてないの、1つしか持ちちゃいけない。でもブラジルは2つ持ってもいいっていうきまりがある。だから日本の政府が、国籍を1つだけにしなさいって言っても、ブラジルの法律で2つ持っていていいことになってるから、日本の政府はブラジル国籍を消すことはできない。つまり、日本人にもなれるし、ブラジル人にもなれるっていうのが結論。

タテベ：パスポートが2つになるっていう。

林：そうそう。だからブラジルに帰るときは、「ブラジル人でーす」って言って。

米須：日本にずっと住んでも、ブラジルにずっと住んでも、別に…

林：何にもしなくていい。手続きもしなくていい。男子だと、いま日本に住んでるとき、毎回兵役のさ、ブラジルの軍隊に入らなきゃいけないのでさ、何年かに一度免除しに行かなきゃならないんだよ、知ってる？行った？名古屋のどこかに行って手続きしないと、非国民みたいになるから、つかまっちゃうんだよね。全員1回軍隊のあれを受けなきゃいけない。

米須：いやだ。

林：だから日本にいる場合は免除になるんだよ。だけど、申請をしないとめんどくさいことになる。でもこれはだぶん、日本人になってもブラジル人だから結局は毎回更新しないといけないから…。

米須：日本国籍を持ってもだめなんですか？

林：そう。だから、日本国籍を持ってもブラジル国籍が残ってるじゃん。だからブラジル人の義務もはたさないといけないし。

米須：それって消すことって、できないんですか？

林：言えど消えるんじゃないかな？

米須：言えど消えるんですか…。

林：でも消しちゃってもいいの？

米須：いや、それは…

林：っていう話をしましょう、今から。「帰国・帰化」はい。みんな最後にブラジルに行ったのっていつですか。

米須：3歳。

吉田：5年前に戻ってきました。

田中：中学校3年生。

権藤：2歳くらい。

タテベ：私も2歳いかないぐらいの時。一回も帰ってない。

金城：私は5歳のときに、2か月間だけ向こうで。

林：じゃあ、みんな結構もう行ってないんだね。もうじゃあ、ブラジルの親戚とか覚えてますか？

吉田：一応、覚えてる、私は。

林：でもブラジルってすごいんだよね。ブラジルでお金儲けるとすごいことになる。

米須：どうなるんですか？

林：うちの親戚のうちのおじさんが、印刷業で成功したんだよね。それで、家に泊まりに行ったらすごいんだよ。大理石で迎えられて、この大学の校舎くらいの大きさで、地下にプールがあって、テニスコートあって、みかん畑あって、楽しかった。俺もお金持ちになりたいって思った。地下に行くとき日本製のスポーツカーが5、6台ばっかあって。日本だと成功してもそれは無理だよ。うらやましいって思っちゃう。

米須：それはブラジルの方が土地が広いからってそういうことは…。

吉田：あっちのほうが資源が多いしね…。物価が安いから…。

林：だから日本でたくさん貯金してブラジル行けば…。働かなくてもいい、でも友達がいない。みんな帰化したいって人は、なんで帰化したいんですか？

権藤：将来の仕事とか、日本の国籍を持ってないとできないものとかあるし、これから日本にずっと住むんだったら、その方が便利かなって思った。

内田：自分の知らない環境とか、何にも知らないような国に行って、リスクを負うよりは、自分の知っている暮らしなれた母国で、暮らして働いてっていった方がいいんじゃないかなって。

米須：帰化すると、ずっと日本で住みたいんで。それに日本の文化とか好きだし、日本にずっと住みたいから帰化したいですね。

吉田：私は有利だと思うんですよ。やっぱりブラジルの国籍がなくなるわけじゃないから。ビザとか取る時に日本国籍の方が有利なんで、その方がいいかなって。将来は日本で暮らしたいから。

林：僕も一回本気で帰化しようか考えたことがあって。今まで一番考えたのが大学1年生のときにアルバイトしたいと思ったんだよね。それで、あるショッピングセンターで<sup>3</sup>。そこで「俺はアルバイトしたいです」って面接受けて。そこの男の人、店長が「ぜひ来てください、すごい楽しみ、いい人ですね」って言って。最後に、「なんで名前がカタカタなの？」って言われて、「ブラジル国籍です」って言った瞬間、その人顔がぱって変わって「ブラジル国籍はちょっと」って言って、次の日電話で断られました。ブラジル国籍で普通に断られたのが…。絶対断られないと思ってたの。顔も日本人でしゃべりも日本人だから。でもいざ断られると…。俺が大学入って就活始める時に、もしこれが理由で断られたら正直たまらんって思って、どうかなって思ったけど、今はそういうのに反発したくなる性格なの。だから、こうなったらブラジル国籍で就職してやるって思って。これで落とすような会社は正直さ、あんま…。だからブラジル国籍でうかってやって…。自分はブラジル人だって誇りを持って生活したいな。反発精神がありすぎて、向かいのカメラ屋

<sup>3</sup> 座談会では具体的な店舗名が挙げられたが、今回の記録を作成するに際し、発言者の意向により匿名で表記することにした。

さんでバイトしてる。そこの店長の目の前でカメラ売ってる。そこの店長すごい顔青ざめてたよ。廊下ですれ違くと「おはようございまーす」って言って。

**金城：**私一応、帰化したいって方に手を挙げてないんですけど、正直私もこれからずっと日本で生活していこうと思ってるんですけど、それで帰化しないってなると正直参政権とかかってないじゃないですか、今。ブラジル人の人とか外国人って、日本では参政権ってなくて。だけど、ブラジルの政治に関わることはできるんですけど、やっぱりめんどくさいじゃないですか、手続きとか。っていう面で考えると、やっぱりそういう政治とかにちょっと関わりたいから、「帰化した方がいいのかなあー」とかすごい悩んでて、今どっちにも手を挙げない状態なんですけど。そういう面で考えたりしますか？

**林：**なんかさ、俺結構ニュース番組とか好きでさ、すごいこの政治はおかしいだろって思う時とかあるんだけど「あ、でも選挙権ないや」って。考えるのも無駄だってなるんだけど、やっぱり欲しいよね。一日中遊んで暮らしてる日本人だっているわけじゃん。そう人たちには選挙権あるのに、「なんでこうやってテレビ見て真剣に考えてる俺に選挙権ないんだよ」って思うときがある。

**金城：**今の政治を変えるためには、まず自分たちが政治に関わらないといけなくて考えた時に、自分たちが帰化しないと関われないってなるから、うーんって思うけど、帰化しちゃったらブラジル国籍がなくなるわけじゃないけど、それはそれでおいしいなって…。

**林：**なんかに妥協しちゃった、負けちゃった感がある…。

**金城：**そうです、そうなんです。だからどうしよう、どうしようってずっと悩んでて。だから、そういう政治とかには興味ってあるのかなって。ちょっと話それちゃうんだけど。そういう面では考えたりする？まだしないか？

**林：**帰化とか考えたことある？

～沈黙～

**林：**そもそも日本の制度がおかしいんだよ。外国人だからくれないっていうか。まあ、ブラジルもそうなんだけど、ブラジル国籍ないと選挙権ないし。そういうのって、そこの国に生活してる人にとってはすごい…なんか…。

**金城：**住んでるから、市民としてちょっと見てほしいなって。同じ日本人と同じように税金とか払ったりするし、なのに私たちには選挙権がなくて選ぶ権利がない、みたいになっちゃってるから…。帰化すれば選挙権はもらえるけど、そういうのでちょっと抵抗あったりするかなって思って、ちょっと聞いてみたんですけど。

**田中：**自分はそんな、全然帰化とか意識してなかったの、別に国籍はブラジル国籍のままでいいかなって思ってたんですけど、いま話聞いてて、やっぱり不利なところはあるんだなって思ったし…。でも選挙権とかはそんなに気にならないですけど、やっぱり不平等ですよ。

**林：**俺が一番不平等だなって思ったのが、たしか俺が小学校のときに地域振興券って配られたんだよ。地域振興券っていうのは、地域の活性化のために、券？みたいなのが。いくらくらいだっけ？2万くらい？もらえるんだよ、一人。なんでも使っていいっていうの。それで配られたんだよ、みんなに。でもブラジル人はもらえなかった。で、俺が一番ムカついたのが、小学校のときにみんなゲーム買ってたんだよ。それで、「俺ねー」みたいになって。そんな時が、一番不平等だと思った。

**米須：**それは一おかしい。

林：不平等だよな。まあ、これを変えてくのは自分たちしかいないよね。

金城：日本にいて、そういう不平等だって感じてる自分たちが伝えないと、気づいてはいるかもしれないけど、それを思う私たちがもう一回改めて知ってもらって、とかそっちも改めて意識してもらえれば、これから良くなっていけばいいんじゃないかなって。

タテベ：広瀬サユリちゃんとかは？帰化とか。

広瀬：大学とか決めるっていうので、日本にいなきゃなっていう意思もあるんだけど、そういうときに限ってブラジルに帰りたいっていうのが出てきちゃってて、どうしようって悩んでます。

林：ブラジルに帰るのは…、俺も一度は帰ってみたいって思う。帰ってやっぱり自分のおじいちゃん・おばあちゃんに会いたいし、親戚に会いたいし。

タテベ：やっぱりみんなって帰りたいって思うとき、家族に会うためですか？

林：そう…俺は、一回ブラジルに帰ったときに、2年間おばあちゃんちで、おばあちゃんに育てられたから。おばあちゃん一回、うちのお父さんお母さんがお金出して日本に連れてきたんだけど、そんな時におばあちゃんが、成田空港でブラジルに帰る時はもう泣きまくったね。だから親戚には会いたって思う。

タテベ：帰るなら家族っちとかに会うと思うし。

金城：私はどっちかっていうと、そっちの文化に触れたいっていうのもある。親戚とかもやっぱり会いたいけど、まだ会ったことがないしとことかもいるし。親戚にも会いたいし、自分やっぱりブラジル人だっていうからには、そっちの文化にも触れたいしっていう気持ちがある。

タテベ：なかなか会えないしね。友達とか「正月に、親戚で集まった」って言うけど、自分そんなに簡単に会えない。ちょっとうらやましかったり…めんどくさそうに話すけど、ちょっといいなって。

林：あと、サンバとかとりあえず一度見とかないとヤバイ。聞かれた時に、もう答えられない。

金城：テレビでは見るけど、迫力とかそういう雰囲気とか伝わりきらないと思うから。

林：踊れる人とかいますか。

～一名手を挙げる～

一同：おおー。

吉田：「カーニバルとか見たことある」って聞かれるんですけど、知ってるけど雰囲気とかは。直接見に行ったことはない。

林：すーごい遠いよね。俺サンパウロ出身なんだけど、サンパウロからリオデジャネイロまでだけでも、沖縄から北海道くらいの距離あるからね。あとさっき気になったんだけど、やっぱり日本とブラジル、サッカーとかで対戦しちゃうと、どっち応援するんだろう。

米須：日本です。

林：じゃあ、ブラジルの人？

～それぞれ手を挙げる～

米須：でも日本負けたらブラジル応援しますよ。第一希望、第二希望…日本負けたら、あーみたいな。

林：そう、途中までは両方とも勝って欲しいんだけど、いざ両方当たっちゃったときには結局ブラジル応援しちゃう。

米須：僕はあえて日本ですね。

金城：この前、バレーなんかで対戦してた時には、やっぱり途中までは日本を応援してる。気づいたら

ブラジル応援してた。

林：サッカーで日本でワールドカップやった時に、ブラジルが優勝した時は超嬉しかった。

タテベ：街で「わー」ってみんなで作ってたのって知ってる？行った行った。

吉田：ちょうどブラジルにいたんですよ、その時。ブラジルにいて、アパートにいっぱいいて、みんなベランダに出て、「フー」って。で、イングランドと対戦した時、ブラジルは朝の3時だったんですよ、その時もちゃんと起きて。朝の5時だったんですけど、みんなベランダに出て「勝ったぞー」って。

林：この前のドイツワールドカップの時は、日本は結構負けたじゃん。日本は初めから諦めついたらけど、でもまさかブラジルがフランスに負けると思わなかった。

吉田：悔しかった。

林：あれは超泣けた。やっぱこれで盛り上がるのって、みんなブラジルが好きなんだね。

タテベ：お父さん、お母さんとかがもしブラジルに帰るってことになって、午前中ビデオ見た感じの、あったよね。なったら自分どうする？

米須：残ります。なんとしても残る。親が勝手に荷物まとめて行こうとしても、なんとか…残る。意地でも残る。

林：俺らぐらいだったらさ、自分たちでバイトしてなんとか奨学金とかもらえばなんとかなるけど、高校生はまだキツイよね。

米須：それでも残る…。

金城：中学生の時まではそうやって考えてた。私は日本が好きだから絶対一生日本で暮らす。でもやっぱり5年生の時に「ブラジル帰れ」って言われた時は抵抗できなくて「じゃあ、分かったよ」って言って、ブラジルの学校に入ったんですけど。やっぱり「自分が帰りたくない」とか「絶対日本にいたい」とかは、私は言えなかった、それは。みんな親には言えそう？はっきり、「私は行きたくない」とか。

米須：僕は言えます。

林：言えるんだ。

吉田：ってか考えてほしい。私はもう初めから親は日本で暮らしたいって思ってたけど、私と妹の決断で決まることなんで。「私ら日本でいいよ」って言ったら日本の学校に戻ることになって妹も初めて日本語に触れて。やっぱりそうやってブラジルに帰る目的があるなら、子どもの都合も考えなきゃいけないと思う。私たちみたいに、私はずっと日本語の学校に通わせたのに、ブラジルに帰れっていうことになったら、それはやだ。私は一応小学校行っててもその間、ブラジル…ポルトガル語もやってたから、そんなに違い感じないけど、ずっと日本語だけでやってる人は、友達にもいるけど、ブラジル人なのに言葉も書けないし。それで「将来どこ行くの？」「ブラジル帰るかもしれない」とかって言われて。「日本語しかしゃべれないじゃん」ってなって。

林：そうすると、どうなんだろう。権藤さんとか、いま親に帰れって言われたらどうなの？

権藤：えーいやですよ。

金城：その旨をはっきり親に言える？いやって。

権藤：それは、何回かそういうことがあって、小さい時に。もう自分は日本にいたいっていうのは小さい時から言ってたし。親もそれを分かってくれて、みんなと同じ学校に入れてくれたし…。だか

ら、私の意見はちゃんと聞いてくれる。

タテベ：ナヤラちゃんとか。

金川：はっきり言うけど、やっぱり自分も迷うことがあるから言えないってなる。

金城：サユリちゃんは…急にたとえば、来年帰るよって言われたら。

広瀬：絶対行かない。日本でしかやってくれないって思うし、だから親を説得して残ってもらえない。

中道：言ってもしょうがないから、無理やり帰らせられると思う。

林：じゃあ、最後しめてくれ。

内田：自分もやっぱり高校入って、中学では2年ぐらいは、はっきり言ってブラジル帰って、ブラジルでおばあちゃんたちと暮らしてなんかやりたいて、日本では夢なかったんだけど、3年に入ったら前向きにこれやりたいな、っていうのを見つけたから、ブラジルに帰ったらこの夢つぶされちゃうなって思っちゃうし、ブラジルだと言語の問題もあって難しいから、できるだけそういうことを親に伝えて残ってほしい。

田中：多分そう言われても、絶対に嫌だけど、仕方なく一緒に帰っちゃうと思います。たぶん、あっちでも日本人学校があるって聞いたので、たぶん着いていくと思います。

林：まあ、ほぼみんな家帰って急に言われることはないから、今回のテーマについては、今日はこれで終わりにします。

## (2) グループディスカッション

①グループ：林、内田、米須

②グループ：金城、吉田、広瀬、中道

③グループ：タテベ、権藤、田中、金川

### ①グループ

#### ◇ブラジル人について

内田：みんなが騒いでるときに恥ずかしくて黙って、避けようとして離れちゃうことも多い。

林：あるね、それは。それは、2つの国の違いっていうのがあるよね。俺たちはその間に生きてるから、うまく俺らはそれを仲介役になってあげたいよね。日本人の気持ちも分かってあげてよ、でもブラジル人の気持ちも分かってあげてよ、みたいな役目ができるようになったら、素敵な人間になれるんじゃないかな、俺らは。

米須：ブラジル人が乗ってる車って大概大音量…。僕が歩いてたんですよね。で、向こうから来たんですよ、車が。すごい大音量で、窓開けてこんな感じで、片手で。もうブラジル人なんですよ。日本人そういうのいないですよ。

林：まあ、でもいるっちゃいるよ。最近バイクで。まあ、そのバイクで大音量でやってる日本人もいれば、大音量で走ってるブラジル人もいるから、そこでやっぱりブラジル人はそうなんだ、っていう考え方はいけないと思うな、俺は。結局、ブラジル人でも日本人でも、みんながやって嫌だなんて思うことは、みんなやってるんだよ。

米須：そうですね、そんな。

林：俺だってこの前、町内会の掃除やったんだよ。なんか親がめんどくさいっていうから、代わりに出てやって。そしたら、いままで、ブラジル人ゴミ捨てうるさい、うるさいって言ってるじゃん。ダメだって。でもそれを言ってる張本人の日本人がたばこを川に捨ててた、みんなで。やっぱブラジル人っていうだけで、そういう風に思っちゃうのは、よくないことだと思う。

#### ◇親との会話について

林：じゃあ、まあ、これ聞いてみたかったんだけど、親との会話ってスムーズにいってる？

米須：スムーズにはいってないです。新しい方に発展的にいくと、一つずついちいち説明しないといけないんですね。それがなんだろう…すごくめんどくさくて。なんで、いつも同じような会話とかしてますね。最近はまあ、なんとか頑張ってます。

林：まあ、やっぱ難しいよね。ポルトガル語しゃべってるんだもんね？（内田くんに）

内田：うん。

林：それだったら特に問題はないけど、俺の場合だと、お母さんとお父さんどっちが日本語しゃべれるかっていったら、お母さんの方がしゃべれるんだよ。お父さんしゃべれなくて。で、気づいたらお母さんばっかにしゃべってるんだよね。気づいたらあんまりお父さんとしゃべってなくて。だから無意識にお父さんだと分かってくれないっていう、無意識にそうなっちゃうんだよね。自然にお母さんとばっかしゃべって。一回それについて本気で悩んだことがあって、いや俺お父さんにほんと失礼なことしてるなって。だから、ポルトガル語しゃべれるようになりたいって思ってるけど、未だしゃべれずって感じなんだけど。

内田：やっぱり自分も2ヵ国語しゃべれるんだけど、やっぱり分からないこともある…それでしゃべっていると、たまに会話が途切れて「なにそれ？」みたいになって、「あんた意味わかる？」って。それでたまに会話が途切れることもあるけど、やっぱり自分で壁を作っちゃうこともある、しゃべれなくするような。そういうこともたまにある。

林：親との会話…。

米須：頑張らないと。

林：頑張らないといけないね。やっぱ親って日本に来て、知らない国で自分たちのために頑張って働いてくれてるじゃん。それを思うと、それなのに自分が親との会話がうまくいってないと、親ってほんとに悲しいよね、って思うよ、親は。

米須：一度、僕親にすごく反発したんですよ、なんでこんなことに、なんかポルトガル語しゃべれなくて…。いま思うとそれすごくひで一ことだなって。いまはちゃんと向き合って、いまの状況を少しずつ教えながら、教えられながら、いきたいですね。

林：基本的に俺お父さんのこと嫌いじゃなくて、しゃべるならしゃべりたいんだけど、まあ一、うまくいかない時は、「じゃあいいよ、別にしゃべらなくていいよ」ってなって、結局自分の部屋行ってなんかやっちゃうみたいな。やっぱり同じ言語でしゃべらないと、難しいところがあると思う。

米須：そうですね。

林：事務的なこと？物のやり取りぐらいしかできないじゃん。気持ちの話とか、それはちょっと厳しいかもね。異なる言語だと…そうなっちゃうよ。

## ◇友だちについて

林：じゃあ、ブラジル人で良かったこと、困ったことで、次はなにかあるかな。やっぱ日本人の友達の方が多い？

米須：ちっちゃい時、ブラジル人の友達いたんですよね。でも自然に日本人の方に偏って行って、いまは日本人ですかね、大概是。自分からそんなブラジル人がたくさんいる場所に行くことしないからですかね、きっと。そこに行くと、必ず黙っちゃうんですよ、しゃべれなくて。だから今は日本人の人しか…。

林：そうなっちゃうね。俺もブラジル人の、俺と同じぐらいの年齢がたくさんいても隅行っちゃって、結局しゃべらなくなる。で、一番俺が、ちょっとポルトガル語分かるもんで、一番ムカついたのが、ブラジル人に「ジャッパ」って言われた。ジャッパってわかる？英語で言うジャップみたいな感じ。ブラジル人なのに、ジャッパって言われた。

米須：ブラジル人がいるところで、言っちゃうと日本人って言われて、日本人が旅行しに行くとはブラジル人って言われて。

林：正直複雑だよな、これ。だって、まあ、日本人の中でブラジル人って言われるのは慣れてるからいいんだよ。でもブラジル人の中にいるときに「ジャッパ」で呼ばれると、ちょっと…。違和感感じたな、あの日は。まあ、相手も悪気はないと思うんだけど。ってか向こうも俺がジャッパっていう単語知らないと思ってしゃべってるんだよ、俺に。だから、ほんとは分かっているんだけど、ちょっと我慢しちゃった、そこは。ほんとは怒ればいいところを。それを言われたことはない？ある？

内田：よく使っているのを見る、友達とか。だけど、自分もたまに日本人を、普通にジャッパ、ジャッパっていうこともあるんだけど、悪気があるって言うわけじゃなくて、ジャポネースっていうと話が長くなるから、短縮してジャッパって言うてるんだけど、そうふうにとられちゃうと…。

林：まあ、ジャッパっていう単語でも蔑視してることもあれば、ただ普通になにも考えてないだけで、でも俺の時はあからさまに俺をバカにしていたんだよ。もう、みんなと一緒にいるのに、俺だけ隅に行きゲームとかやりながら、「なんであいつ、俺の中に入ってこないんだよ」みたいなこと言うてるの、向こうで。どっちにしろ俺行ったところで俺しゃべれないし、話合わないし。

米須：僕もそんな感じ。ゲームしてるか、食べるかみたいな。

林：だから、親戚の集まりとかだと、仲良い親せきの人たちはあいさつして、「久しぶり」ってやって、でも途中からどうせしゃべれないから、隅行ってなんかやってる。

米須：すごい、早く帰りたかったですね。あと何時で帰るの？みたいな。

林：そうあったね。やっぱブラジル人って毎週土日集まるじゃん。

米須：集まりますね。

内田：バーベキューしたり…。

林：だから、話が合う人がいればずっと一緒にいても楽しかったけど、話が合う人が一人もいない時は「まじ、いつ帰んの？」って言って。それで、すっげ一怒られた記憶がある、親に。

米須：ブラジル人同士で行ったんですよね、川辺に。なんかバーベキューで、夏の時に。それで、あまりにしゃべる時がなかったから、別のところの全然知らない人ですよ、入っちゃって、輪の中に。石投げたり、一緒に遊んで。日本人の方行っちゃいますよね。あまりにも…。あまりにも寂しか

ったんでしょね。

林：ほんと話合わない辛いよね。でもほんと俺はしゃべりたい。しゃべりたいけど、しゃべれない。そう思うと、しゃべれる人が羨ましくてしょうがない。

## ②グループ

### ◇学校について

吉田：10時40分にバスが来て、ギリギリ10時半まで寝てるの私はいつも。で、中学校行くために7時に起きなきゃいけないし、全然違うじゃん。宿題もあるし。

広瀬：英語のね、もう宿題ありすぎ。

中道：ほんとに毎日5時間くらいやらないと、夏休みだけじゃほんとに終わらない。予習だけでも、多いっていうのに。それが一教科だけじゃなくて、何教科もあるっていう。

吉田：そこ先生とか考えてくれないよね。しかも、始業式の時に、課題テスト同じ日にやるよね。

中道：26日から学校始まるんだけど、もう期末？期末だよ。

吉田：課題テストで、たしか大掃除もあるかもしれない。

中道：あーめんどくさいね。

吉田：めんどくさい。

金城：そういうそれは、日本の文化って言って良いのか分からないけど。

吉田：やっぱり学習面がね。

中道：関心が違うっていうかね。

吉田：ブラジルの学校に行って、英語についてなんて思いました？学習面で。

金城：ゆるいって思った、すごい。

吉田：そう、私も発音はね、みんなやればできるんだけど、私も中学校入ってから別にブラジルの学校でも英語やってたんだけど、中学校入ったらもっと英語に興味持って、それで英語しかできなくななくて。そうしたら、「日本ってすげー」って思った。別に発音はあんなにベリーグッドじゃないけど。でもすごく学べる雰囲気っていうか。

広瀬：でも、逆だと思う。

中道：私、ブラジル小5でブラジル行ったんだけど、小5で行った時にdoとかやってましたよ、学校で、英語で。

吉田：そう、それは早いけど、小学校の時にブラジルでは小学校の時にはもう英語やってるけど、日本では中学校からやっても追いつけるんだよ、絶対、一年間とかで。すごくいいですよ。だって私、2年生の夏休みのあとに入ったんですよ、中学校に。ほんとは3年生に入るはずだったけど、入って入試にちゃんと追いつけるために。そしたら、その一年半で、もうべらべらっていうか、学んだやつを、すぐ、友達になりやすいもんで、ALTと友だちになって、会う時にはしゃべって、それで話せるようになったもんで。いまでも高校入った時に「君いつから英語やってるの？」って言われて、「一年半ですよ」って言って。「えーそんなに話せるの？」みたいになって。「あー私話すの好きだから」って言って。こうやってジェスチャーを使って。私のALTの一人はポルトガル語話せるんですよ。いま学校から出てアメリカ帰るんですけど。それでも助かるし。「これ何て言うの？」みたいな。

金城：そういう教育に関しての関心っていうか、先生たちがどれぐらい熱くなるかっていうのも違うんだよね。

吉田：ALTだとね、やっぱり自分たちみたいに外国人だもんで、アメリカだからやっぱり、コミュニケーション取りやすいし、そうやってコミュニケーション取ってればすぐなれるっていうか。

#### ◇学校での勉強について（日本語教育）

金城：ちょっと気になったことがあって、学校とかでブラジル人だからとかっていうことで、特別扱いとかされていやだな、とか、ああ良かったって思ったことある？

広瀬：友達があったけど、うちはなかったね。

金城：ああ、そうなんだ。友達ってどんな感じ？

広瀬：同じ学年で、親の責任もあると思うんだけど、日本語があんまりしゃべれない、書けないっていう子たちが、国語の授業だけは他の適応教室って言って、他のクラス行って、ちょっとゆっくり分かりやすく、授業を受けてたっていうのはあります。

吉田：いまも、お母さん、子どもの面倒みてるんですよ。ある兄弟が、男の子と女の子が家にいて、いま（その子たちの）お母さん東京に行ってるんですよ。なんで、いつも家にいて弟と妹みたいな感じで。その子たちを女の子が「私この算数分かんないんだけど」とかって言うんだけど、「なんで先生に聞かないの？」って言って。ちょうどどの算数の授業にも適応教室に行くんですよ。やっぱり算数じゃないから、やってることは。なんで、うちに聞かれても、説明したくてもそんなに出来ないじゃないですか。「じゃあ、お父さんに言って変えてもらいな」って。だって、毎回毎回算数の授業とられると。それやっぱりつらいよね。やるなら放課後とかにやってほしい。小学校すぐ終わるしね、時間帯。高校だったら、ちょっときついかもしれないけど。

中道：私の学校では、そういう人たちは国語の時間と、道徳の時間しか行ってなかった。じゃあ、授業に支障がないようになっていうふうに。

吉田：まあ、国語はいいよね。数学は足し算とかだからさ、式とか覚えなきゃいけないからさ、とっちゃいけないと思う。

金城：実はうちの母はいま、そういう教育関係で働いているから、そういうのすごい聞くんだけど、ほんとにありえないよね。算数とか理科の時間に出しても、たしかに言葉は分からないかもしれないけど、そこから覚えるものもあるんだろうし、どうせならちゃんとね、国語の時間に出して国語を教えたらいんじゃないかなって思うんだけど。

広瀬：授業を一緒に受けるって言うか…。

金城：そうだよ、別の人が来てサポートしてあげるとかね。

広瀬：そっちのほうが、いいと思う。

金城：いま浜松にもそういう制度が一応入ってて、全部の小学校じゃないんだけど、あるにはあるのね、そういうサポーターとか。

吉田：私もそういうサポーターいいと思うんですけど。私の妹も小学校の4年生に入ったんですよ。前はあいうえおと書けるか、書けないぐらいで、ほんとにしゃべれなくて。全然しゃべれなかったんですよ。一応通訳は付いてたけど、授業受けるときには通訳付いてなかったんですよ、他の子に付いてて、妹に付かなかったもんで、2か月でもうしゃべれるようになったもんで。サポーターい

なくても、やる気を出せば大丈夫だと思う。

中道：逆にサポートしてくれる人がいると毎回頼っちゃうから…。

吉田：もう勉強しなくていいな、みたいな。

中道：どうせやってくれるから、って思っちゃうもんで、逆にできなくなる。

吉田：妹から見るとやっぱり付かない方がいいって思う、私は。別に妹もはじめから全然分からなかったし。

中道：私の時も全然そういうのはなくて、全然できるようになったから。

金城：もう、自分で。そっか、なんかいいことを聞かしてもらった。

吉田：お母さんに言っといてください。

金城：ありがとう。そうだよ、やっぱり自分がやる気があれば、もう出来ちゃうものは出来ちゃうしね。

吉田：それか、1時間はサポーターなしで、1時間は…それか放課後に「これどういう意味？」って聞くなりゃいいじゃん、自分で見つけたから、分かんないこと。でもサポーターが全部言うとき、「これ知ってた？」「知らなかった」って気が付かないよね。

金城：そうだよ、確かにそうだ。

#### ◇入試について

金城：そのほかに自分が特別扱いされたな、って思ったことってある？とくにないな？

吉田：入試とかも、インターナショナルクラスだしね、私は普通に受けたし。

中道：うちらも、普通科と全部一緒で。

金城：全部一緒なんだ。前期？へー。あ、ちょっと関係ない話になるかもしれないけど、そのインターナショナルクラスの入試っていうのは、ポルトガル語とかもやるの？

広瀬：いや…。

吉田：日本語を試すんだよね。私も一応行こうかなって思ったけど。

広瀬：日本語かポルトガル語で、どちらかで受けるかっていうのが選択できた。

金城：なるほど、選択か。

中道：ポルトガル語はないら？

広瀬：なにが？ポル語でテスト？

中道：うん。

広瀬：あったよ。

中道：入試だに？

広瀬：そのポルトガル語のテストじゃなくて、問題用紙がポル語で書かれてたっていうのはあるよ。

中道：ふーん。

広瀬：選択制だったもん、そこは。

#### ◇親との関係について

金城：ああ、じゃあこれも聞いてみようかな。いま、親との考えのちがいとかってなんかある？親とすれ違っちゃう、考えとか。自分は、そうだな、たとえば親はブラジルで教育を受けて育ってきた

じゃない？たぶん。その考え方と、いま自分が日本で教育を受けていて、自分の考え方と違うって思うことってなんかある？

吉田：結構受け入れてくれるかな。別にそういう考えとか話し合ったことないけど、別に言うと反対しないっていうかね。

金城：じゃあ、意見がぶつかったりとかって、とくにない？

広瀬：ない。

吉田：そうやって、意見言う場もないと思う。

金城：そうなんだ、家では親と話す？

中道：かなり話します。

金城：そっか、そっか。でもなんか親も受け入れてくれるし、あっちも話せば受け入れるし、って感じ？

広瀬：うん。

金城：なるほど。そういえば、家では何語で話してるって言ったっけ、みんな。

吉田：私はポルトガル語。

中道：ポルトガル語。

広瀬：両方。

吉田：お母さんは（日本語を）しゃべれないから。

広瀬：お母さんはポルトガル語で。

吉田：お父さんはしゃべるけど、全然そういう慣れてないから。妹も前もずっとポルトガル語で話してたから、日本語でしゃべられると「なに？」って。「ごめん、ポルトガル語で言って」とか。お母さんも知らないから、キレるっていうか、怒っちゃうんですよ、「おまえら、なに日本語でしゃべってるんだ」って。

金城：そっか、そういうこともあるんだ。そういうのある？とくにない？

中道：うちはもう…、

金城：ポルトガル語一色みたいな？

中道：もう他に日本語知ってる人がいないから、しゃべりようがないんですよ。

金城：そうなのか、なるほどね。それで、じゃあ例えば、日本語とかでしゃべって、お父さんとかお母さんが「え、なにそれ？」とかって言った時に、ちゃんと説明できる、日本語の。なんだろう、伝えたいことを、ちゃんとコミュニケーションとして伝えれる？

中道：はい。

金城：大丈夫？問題はない？

吉田：ものによる。

広瀬：分んなかったら、もう辞書ひくしかない。

吉田：私説明できるけど、その説明の中にまた日本語が出てくるかもしれない。

金城：そうだよな。

吉田：なんか彼らが知ってるような日本語が出てくるようにします。

### ③グループ

#### ◇自分の名前について

タテベ：なんか日本っぽくない名前だとかっこいいって言われる。言われたい？

金川：でもなんかちょっと抵抗あるよね、日本人のなかで自分だけカタカナとかだと。

権藤：最初だけじゃない？

タテベ：私ずっと隠してたよ。アリーニって言うんだけど。

一同：かわいい。

タテベ：やっぱみんなないから、名前カタカナっていうのもすごい最初嫌だったし、それなのに、またもう一個余分についてるから。好きだったけど、やっぱ日本の人たちの中だと隠して。ブラジルのコミュニティとか、そういうところ行くと別に「アリーニだよ」みたいな。「サユリだよ、どっちでもいいよ」って言ってたけど。

田中：今でも隠してますよ。全然仲良い友達にも教えられなくて。長くて、全然好きじゃないし。

金川：でも、なんか普通に呼ばれてると普通じゃない？みんなに呼ばれてると。

タテベ：隠しちゃうか…。

田中：隠しちゃう。それで学校の中で呼ばれたら恥ずかしいなって。抵抗感あるかもしれない。

権藤：でも友達冗談で、普通に「ミリアン、ミリアン」って日本人の子でも呼んだりする。

金川：逆にそういうのが嬉しかったりするよね、絡んでくれる、みたいな。

### (3) 全体ディスカッション (後半)

#### ◇進路と夢

林：あと2つテーマがあります。「進路と夢」です。いまなんか、もうこういうのやりたいとか決まってる人いますか？決まってる人？

～それぞれ手を挙げる～

林：じゃあ、一人ずつ聞いていこっか。内田くん。

内田：僕は、できれば医療関係に勤めたいと考えています。3年になったら、そういうのが急に興味が出てきて、薬剤師とか、医療関係とか、勉強したいな、って思うようになった。

タテベ：すごいな、医療とか。

内田：ちょっと大変だろうけど、ちょっとやってみたい。

林：どんどん聞いていきましょう。

田中：私は英語が大好きなので、将来は留学したいんですよ。英語をもっと話せるようになりたいし、そのために結構資格とか取るつもりだし、もし行けたら、翻訳に興味があるので、学校でも翻訳コンクールっていうのがあって、この前やったんですけど。私すごい楽しくて、やっぱり人によってそういう解釈とか、感じで違うから、そういう分野に就けたらいいなって思ってます。

林：あれだね、絶対に言われると思うけど、ポルトガル語と日本語と英語3つできた方がいいと思うよ。

権藤：私は、親が小学校とか中学校とかを回って、日本語とポルトガル語もぺらっぺらなので、通訳みたいなやってて、親が日本語が分からない子たちとかを助けたりしてるから、その話を聞いてて、私も同じようなことやれたらいいなって思ってた。だから、進路は大学に行って、ポルトガル語を勉強して、いましゃべれないから、できたらブラジルのおじいちゃんとかおばあちゃんの

ところに行って覚えて、で日本に戻ってきて通訳の仕事がやりたいです。

林：大学ってだいたいどこになるのかな？京都外語大とか、ブラジル・ポルトガル語学科とかってあるよね。

権藤：考えてます。

タテベ：いま学科がメディア造形学科っていう、まあメディア関係のやつなんですけど。大学入ったときは広告とかすごいやりたいなって思ってた、広告のポスターとかチラシとか作る人やりたいなって思ってたんだけど、CGとかアニメーションも作ってみたいなって。とりあえず、つくる人になりたいです。やっぱブラジルの文化もいろいろ知ってるから、そういうグローバルな感じの、国際っぽい感じ。なんだろう、ポルトガル語もしゃべれるようになって、どっちのコミュニティにも足をつこんで、広い分野でやってけたらなって、すごい考えてます。

金川：将来は、留学とかして国際的な仕事に就きたいなって思います。いまは英語とかを勉強して、言語関係の大学に進みたいと思ってます。

広瀬：将来、できれば教育関係の仕事に就けたらな一って思ってるんですけど、でもやっぱりポルトガル語も勉強したいっていう。通訳とかもなりたいたいんだけど、そしたら大学も結構レベルの高い東京外大とか？じゃないとポルトガル語も勉強できないっていう。なんだろう、何すればいいかわかんないっていう状況でちょっと迷ってる。

吉田：私も一応ポルトガル語と日本語と英語が使える仕事に就きたくて。一応なんだろう、何かやるときはすぐ飽きる人なので、1つの職業じゃなくて2つくらい持ちたいと思うもので、自分の興味とか趣味とかも入れて。なんでできたら今まで学んできた日本語とポルトガル語、でいま学んでる英語を使って、通訳とかやったり。人を雇う会社ってよく言うじゃないですか、そこに入って、それで自分で、マッサージ？とかっていう専門学校みたいなのに入って、その2つを組み合わせ、自分が好きなこととかやりながら、生きていきたいです。

中道：私は、私も2ヶ国語しゃべれるので、通訳みたいな、そういう関係の仕事に就きたいと思って。分野が医療も好きなので、病院とか？そういうところで言語が分からない人たちの役に立てたらいいなって思ってます。

金城：私は高校の時からデザインの勉強をしているので、それを継続させて工業製品を造る人になりたいといまは思っています。大学入ったときも、もうずっとその考えで、いまもその考えは変わっていません。で、私教育にもやっぱりすごい興味があって、日本で住んでるブラジル人の子どもたちとか、ブラジル人だけじゃなくて外国人の子どもたちがどんなにを苦労してるかっていうのを最近よく聞くので、そういうのを手伝える仕事もしてみたいな、とも思って。でも正直どっちの方向で進んで行こうかっていうのを悩んでいます。

米須：模索中です。いまは何をやりたいかわからないんですよね。自分は本当にどこの分野に進みたいのか。なんで、探しています。

林：高校のうちに見つかると思うよ。僕はどっちかって言うと、いま大学で「国際労働力移動論」というのを勉強してるんですけど。まあ、なんでブラジル人が日本に来るのか、なんでまた戻ったりするのかっていう勉強してて。そこで、ブラジル人がもう日本に残って今後住んでくっていく考えが、まあ勉強しててそうなったんですけど。そうするとやっぱり日本に住むっていうか、日本で家を持たないといけいってことで。俺は人に、ブラジル人に家を売りたいです。建築関係

のところ勤めて、ブラジル人に日本で今後いい生活を送ってもらえるように、いい家をどんどん売ってきたいです。まあ、みんな意外とすごいね、言語とかに関心があって、みんな将来同じ大学にいるかもしれない。でもやっぱり、2つの言語に慣れ親しんでるから、やっぱりそういう関係やってみたいって思うよね。

#### ◇子どもたちが工場で働くことについて

林：じゃあ、ちょっとこれ聞きたいんだけど、中学と高校で途中で学校挫折してやめて、普通に工場とかに働きに出てる自分たちと同じくらいのブラジル人についてどう思いますか？

内田：正直もったいないと思う。せっかく中学まで頑張ってきてきたのに、そうやって勉強投げ出して、工場行って、それで自分の人生を工場働きで終わらせるっていうのはもったいないって思うし。やっぱり頑張れば、どんなに成績とか悪くても、頑張れば必ず道は開けるし、実力は伸びていくものだから。そういう人たちを見ると、自分で思うと、あの人にはもっと希望、将来性はあったのに、投げ出してしまってもったいないなって思う。

林：まあ、そのつい学校、ブラジル人の来てすぐ、ブラジルから来てばっかの人たちにいきなり日本語を教えて、それで中学に対応する。適応できて高校に行けるかって言われると難しい場合もあるじゃんね。そういう人たちに対するあんまり支援がないと思う。ブラジル人学校で頑張れば、直接高校に行けるようにするとか、そういう制度がないから。僕たちみたいに日本に長くいてうまく適応してくれる状況、そういう環境じゃないじゃん。俺たちがたまたま運が良かっただけかもしれないけど、そうすると僕たちだけじゃなくて、その恵まれない子どもじゃないけど、そういう環境にない子どもたちが全員そういうのにつけるのは結構大切だと思うから…変えていきたい。

金城：正直、ブラジル人学校でも大学に行けるようなレベルの教育はしているつもりではいると思うんですけど、やっぱり実際例えば日本にあるブラジル人学校のなんかは、いくら頑張っても勉強しても、国に帰った時にそれ相応の学力がついてなかったりして。大学進学難しいってほどじゃないっていうか、難しい状況にあるので、日本の中学とか高校とかをちゃんと出て、日本の大学に進んだ方がいい教育を受けれることになるんじゃないかな、って私は最近思います。

林：やっぱ僕も同じ年ぐらいの親戚の人がいて、俺は日本の中学行ったのに、その人はブラジル人学校に行って。俺はそんな時に、なんでブラジル人学校に行くんだろうって思って。正直未来がないって思って、そんな時は。正直いまでもまだ、あんまりそれは変わらないんだけど。だって日本にいるんだったら日本の高校に行けば、自分のやりたいポストもつけると思うし。難しいんだよね、それは。帰るか帰らないか分からないしね、親が。

内田：僕は親が、母がブラジル人学校で働いてるんですが、よく母が言ってるのを、話をよく聞くんですが、やっぱり日本学校からブラジル学校にそのまま行く人が多いんですけど、たいていそれは、みんな日本の勉強についていけないとか、やっぱり中でいじめがあったりとかってことで辞めてしまう人が多いんだけど、そういう向こうの先生たちや日本語を伸ばせるような支援するような人たちが必要だと思います。

林：いまのある分だけじゃ足りないっていうのは、すごい分かるよね。

金城：これからまた、プラスアルファして肉づけして、支援していける形を取りつつ、自分たちでも取ってもらえるような政府にしないと、良くなるものもなくなってしまいます。

林：とりあえず、「そういう制度を作って下さいよ」って言うじゃなくて、先輩の俺たちがそういうのを作ってあげるっていうのもありだよ。たまたまいい環境で高校も中学も行って、俺は大学も行っちゃってるんだけど、そうやって行けちゃった人たちが後輩たちのためにそういう制度を作ってあげるのが大切なことだと思うよね。

金城：意識を変えさせるっていうのもありますよね。高校中退、高校とか中学とか途中で辞めちゃうのは、ほんとにすごくもったいないことだから。周りにもやっぱりそういう人っているのかな？

タテベ：やっぱり親とか、中学とか行かなきゃいけない義務教育だから、行かなきゃいけないっていうのは分かるけど、高校とかの場合辞めれるし。親が「それはだめだよ」ってちゃんとってくれる人がいいけど、「もういいじゃん、働いちゃってよ」って言う人もいるから実際友達とかに。うちの場合だと、「高校はちゃんと行って、大学もちゃんと出なさい」ってずっと言われてるから、それが普通なんだって思えるけど、そういう環境に置かれてないと、やっぱり働きに出ちゃうっていう人が出るのもしょうがないっていうか、普通のことかなって。周りの影響もやっぱりすごいあると思うし。

吉田：別に中学って入るために入試のテストがないから辞めやすいと思うし。高校はやっぱりみんな頑張ってるから辞めにくいんじゃないかな。でも、私の友達でもブラジルの学校に行った時に、多くの方はブラジルに行って大学入るためだったけど、その中の一人の友達は、お母さんはただ義務教育を終わらせて、その後は働いてもらって、私のために私の面倒見てほしいって。別に進路してほしくないの、勉強してほしくない。ただ働いて、私の面倒見てほしいだけだと思うんで。私のお母さんもね、私がどんなに辞めたくても、でも私もちゃんとブラジルの高校もちゃんと終わりまでやったんだけど、日本に来てなんの将来もないじゃん。「君はちゃんとかうやって小さいころから勉強してるから、やりたければ将来私みたいに工場で働かなくてもいいから、それを捨てないでほしい」、そうやって子どもに言えば分ってくれるし。子どももそうやって、工場から疲れて帰ってくる親を見れば普通分かるんだけどね。やっぱり親の応援が一番必要だと思う、私は。小さいころから「勉強しなくていいよ、勉強する意味ないよ」とかっていう親とか。時々いるんですよ。50%以上親の責任ですよ、子どもの考え方とか。小さいころから「勉強は必要だよ、大切だよ」って言っとけば、子どもはそういう考え方で成長するし。

林：俺も小さい時から「絶対大学だけは行きなさい」って。しゅしゅ勉強して大学行って。まあ、巨大絵って絵描くって言ったよね、今度小学生と。その人たちに、親にも来てもらおうって思ってるんだけど、来てくれた親にその日ちょうどオープンキャンパスで、大学の中歩いてもらうんだ。そうするとそれを見たブラジル人の親たちが、「よし、将来自分の子どもも大学行かせよう」って思ってくれば大成功だと思うんだよね。だから、今回はそういうのをいろんな意味をこめてこの企画してるから、すごくいいことになると思う。いきなり小学生に大学見せたって、そんな分かんないじゃんね。

吉田：きれいな建物だね、くらいだよ。

金城：あーお姉ちゃんがいっぱいいる、くらいで。

林：中学生に大学紹介した所でも、そういう可能性あるじゃん。そしたら、小学生の子を持つ親に大学を見せることによって、「ああ、将来大学行くところなことがあるんだ」っていうのを覚えさせとけば、親が「大学は行きなさい」っていうことになる。そうすると、子どもも頑張ると思うか

ら。これが、今回の企画です、趣旨です。頑張っって考えました。

**金城**：親の意思を変えていかないと、子どもはやっぱり親を見て育つから、親がそういう教育とかに関心がないと、やっぱり子どもも教育に関して「どうでもいいんだ」とか思っちゃったりとか「工場で働けば生活していけるから」とかっていうふうになっちゃうから、まず親が「こういう人生だけじゃなくて、あなたは夢を持っていいんだよ」とか「こういうふうに進んでいってる先輩たちもいるから、**あなたも頑張ればできるんだよ**」っていうふうに支えてくれる人…人っていうか、**支えてくれるような考えをもってほしいなって思う。**

**林**：親からなんか言われたりとか…。

**米須**：大学までは、行ってもいいけど、その後はおまえの自由だみたいな。そっからはあんまり親も言わないんで、自由にやればいいよって。

**吉田**：うちのお母さんは、別に高校だけは卒業してもらいたいって思ってる。高校だけでもいいし、職業に就けるから大丈夫だし。絶対工場だけには入って欲しくないって、それが条件。工場じゃなければなんでもやっていい、みたいな。それだけ言ってくれるとね。だって工場で働いてる人だって、将来年金とかもらえるわけじゃないしさ。いま60代の人たちとかも働いてるところみるとさ、死ぬまで働くのかね、みたいな。**やっぱり私たちだって違う未来が作る事が出来るし、親たちが考えを変えさせなきゃいけないっていう…違う立場に立ってもらって、考えてほしい。**

**林**：権藤さんはなんか親から言われたことありますか。

**権藤**：親は「大学は行け」って言います。その後はやっぱり自分でやりたいことやればいいし、留学したければ行けばいいし、自由にしてくれる。

**林**：田中さんはどうですか？

**田中**：うちの**母と父はちょっと意見が全然違って、母はさゆりさんの家みたいに自分は工場で働いてほしいからって、高校だけは卒業してほしいって事言うんですけど、父はあまり教育に関心なくて、高校に入る時も普通に進学しようと思ってたんですけど、父は就職させるつもりでいたみたいで、ちょっと意見が分裂して。でも大学っていうのは何も言ってきましたね。**たぶん行くとしたら、自分でどうにかしなきゃいけないと思うんですけど。

**林**：でもそれに関しては問題ないよ。だって自分でどうにかすればいい。ちょっと大変そうだけど。でも、留学の目標があるから…自分がやりたいことやればいい。

**タテベ**：マリアナちゃんとかは？

**中道**：私の親も高校まで絶対やりなさいとは言ってるんですけど、大学まではそんなに厳しく「やれー」みたいな感じのは…。でもやっぱりさゆりさんのお母さんみたいに、工場では絶対…。

**タテベ**：親とか結構やっぱりブラジル人とか工場で働いてて、すごい大変な思いをして、危険だったり、すごい疲れて帰ってくるのに、そういう経験を自分がつんでるのに、子どもにやらせようっていうのはどうなのかな。

**金城**：同じ経験をしてほしくない、自分の夢を持ってほしい、自分が追えなかった夢を子どもは自分自身の夢を持ってほしいってきつと思ってる親の方が多いと思うから。そうやってまだ考えれてない親たちの考えを変えてくることが、これからの課題なんじゃないかな。

**金川**：うちのお母さんはやっぱり**自分も工場に働いてて、苦労してるから、私にはいい大学に行って、いい職業について、いい暮らしをしてほしいって思ってくれてるんで、それがすごい支えになって**

るような気がします。

タテベ：頑張っているんだって気持ちになれるよね。

林：ほぼ全員もしかして大学進学目指してますか？

米須：はい。

林：頑張ってる。でも、まあ大学行けばいろいろ視野広がるしね。

タテベ：貴重な時間。

広瀬：うちの親も「絶対大学行け」って言って、もし行かないと親みたいに工場働く羽目になるから、行けって言うふうには毎回、今日の朝とかも。出る 15 分前なのに、ずっと話したり。まあ、いろいろとうざい面もあるんだけど、考えてるなっていうふうに思ってます。

林：まあ、親が頑張ってる工場働いて、俺たちを育ててくれたのに、俺らが結局また工場働いたら、正直何のために親が働いたんだってなるよね。頑張らしましょう。きりがいいので、次はラストなので…じゃあ、5分休憩しましょう。

### ◇日本・ブラジルへの希望

林：日本・ブラジルへの希望。どうなってほしいか、望むものを考えましょう。これは難しいです。じゃあ、さっき男子には言ったんですけど、ブラジル人犯罪についてどう思いますか。または、外国人犯罪。よくテレビで「ブラジル人がなにになにした」っていう、よくニュースになりますよね。でも、さっきも言ったんだけど、いま浜松にいる日本人いるじゃん。100 人のうち 3 人は犯罪を起こすんです。浜松市のうち 100 人のうち 3 人は。で、浜松にいるブラジル人の 100 人のうち、何人が犯罪を起こしますかって言われると、同じ 3 人なんです。つまり日本人と全く同じ、まあ犯罪しちゃいけないんだけど、同じ犯罪率なんだけど、なんかブラジル人がっていうニュースになっちゃうよね。それってちょっとキツイよね。そういうイメージ与えちゃうと、やっぱブラジル人で犯罪犯すんだっていうイメージ付いちゃうじゃんね。そういうのってどうにかなんないもんかね、って思うよね。

金城：少数が悪いことをしたことで、ブラジル人コミュニティ全体が、悪いイメージつくから、どうやって改善していくっていうか、そういう意識の改善はどうやってやったらいいのかなって私はいつも思うんだけど。どうかな？

吉田：日本人だと、なぜその人がそういうことをやったのかを、ちゃんと原因を探るんですね。でも、ブラジル人はなぜその人がやったのか、原因は日本人じゃないの？とか。ちゃんと調べてくれないうか、ただブラジル人がやったっていう。別にやりたいからやったわけじゃないのに。そういうとこの差別がありますよね。

林：そうだね。でも、伝え方がちょっと…ブラジル人がやった、みたいになって、みんなやってる。同じ…日本人だって同じように犯罪するし。でも俺が一番思うのは、そういうのをなくすためには、ブラジル人が認められなきゃいけない。僕たちが頑張ってる日本社会で活躍すれば、そういうイメージは次第になくなっていくと思う、って思わない？

米須：そうですね…。

林：じゃあ、まあ 10 年後、20 年後、浜松にいるブラジル人にどうなってほしいか。なんかありますか？

内田：やっぱり、2 つの国と一緒に仲良くやって、交流とかできたりとか、溶け込めれるような環境作り

とかを、できていれば、また将来の人たちにもいい影響になるし、その先の将来も、国同士がいい国となれると思うから、やっぱりそういう国と国同士の仲の良さが良くなってほしい。

林：田中さん。

田中：普通にブラジル人って言っても、そういう存在をやっぱ認めてほしいし、仲良く共存できればいいなっていうのが理想で、そのためには、やっぱり結構探せば不平等な所ってたくさんあると思うので、そういうのを改善してほしいと思いますね。

権藤：今は差別とか同じことをしても、犯罪みたく日本人とブラジル人だったら受ける印象が違うと思うし、その考え方を日本人の人たちに変えてもらいたいし、そのために今から自分たちからどんどん、将来良くなるように頑張っていけたらいいと思う。

タテベ：浜松に引っ越して来る前に、群馬に住んでたんですけど、そこに住んでたのが結構日本人だったり、ブラジル人だったり、アルゼンチンの人だったりとか、結構いろんな人がいて。でも別に壁とかなかったし、みんないるのが当たり前みたいな感じになって、もうお互いの文化とかも知って楽しんだりとか、すごい仲が良くて。だから、ここでももっといるのが当たり前っていうか、特別視とかしないで、でもお互いの文化を知って楽しんで、みんな仲良く暮らせたら楽しいだろうなって、すごく思います。

金川：ブラジル人も日本人と一緒に同じくらいの可能性があって、同じ…いろいろみんなに感じてほしいって。それで、堂々と生きてほしいっていうか、それで仲良くなっていけたら一番いいかなって思います。

広瀬：私の場合は、とくに日本の教育を改善してもらいたいんですけど、まだ来たばかりの子たちが、いきなり日本学校に入ってなかなか追いつけないから、工場に働きに行く…親もそうしてお金を貯めてブラジルに帰るっていう、そういう子たち多いと思うんですよ。だから、教育関係を日本もゆとり教育だかでいろいろ問題になってるし、なんて言えばいいんだろう…。せめて10年、20年後の子どもたちは、高校を卒業できるレベルまで、日本語とポルトガル語を頑張してほしいと思います。

吉田：やっぱりこうやっていいチャンスがあって集まることもできたし、お互いに自分の考えを言い合うことができてるし。そういう機会を増やしてもらいたいっていうか。他の高校みたいに、許可出さなかった高校みたいに、もっとそういうブラジル人っていうか、外国人誰にでも、もっとチャンスを与えてほしいっていうかね。こうやって日本語しゃべれないけど、頑張って学校行ってるんだから、もっとそういう認めてほしい。そういう環境が私たちの力で変えていくっていうか、やっぱり私たちは時々そうやって、他のブラジル人が変なこと、犯罪起こしたからって、私たちにはそういう責任がないんだけど、私たちが変えなければ、私たちが違う面を見せてあげなければ変わることはないから。みんなで頑張って、やっぱり将来はもっとみんな、ブラジル人とかペルー人とか日本人っていうのがなくなるんじゃなくて、誰でもいいから国籍関係なく、平等に生きてほしいなって思います。

中道：国がお互いに文化をもっと知るべきだと思います。文化とか知らないもので、すれ違いがあって、けんか…争いになったり、そういうことが起きるんで、もっと知ればいいと思います。20年後はやっぱり、みんな平等で、いまはブラジル人だと悪いイメージがあるから、「私は日本人だ」って言う人がいるんだけど、20年後はやっぱりブラジル人はブラジル人だっていう誇りを持って、日

本人は日本人っていう誇りを持って、言えるような国になってほしいです。

金城：私もほんとに思うところがいろいろあって、やっぱりブラジル人とか日本人っていう前に、みんな同じ地球っていう一つの大きなかたまりに住んでる住人なんだから、そういうへんな壁を作らないような社会になってほしいっていうのが一つ。あとお互いがやっぱり文化をよく知って、っていうか知ってその違いを受け入れて、お互いの文化を尊重し合えるような関係になっていたらいいなって思います。

米須：僕は、日本人とブラジル人が将来、へんな壁を作らず、仲良く一緒に働けて、それプラス互いの文化を尊重し合える、そんな関係が築けたら一番ですかね。

林：やっぱり、その結局 10 年後、20 年後は、まだまだそういうのって取れないと思うけどね。結構乗り越えなきゃいけないハードルみたいのってたくさんあって、それ一つ一つをクリアしていけば、いつかは浜松の街歩いていた時に、日本人がブラジル人に向かってポルトガル語であいさつしたり、日本人がブラジル人にあいさつしたり。ブラジルの雑貨…そういうところに普通に日本人がたくさん入って、出てくる。で、浜松の食卓では、よく『ケンミン SHOW』<sup>4</sup>とかあるじゃん、テレビで。「浜松の食卓ではシュハスコが良く並ぶ」とかさ。そういうようなさ、もう浜松ではブラジル人と日本人と一緒に住むのは当然のことだっというような街になれば、すごくカッコいい街になると思います。

吉田：他の国からも、浜松がそうやってブラジル人も日本人が、そういう関係で有名になるとか。やっぱりクラウジオさんが言ったように、20 年後にはもう完璧にそういう問題が解決してるわけじゃないし、私たちがそういう他の子に伝えて、自分の次の世代とかにどんどん伝えていくっていうか、どんどん違う私たちのいいところを見せるように、教えながら、伝えながら、成長していけば、いつかはいい国になるかなと思います。

林：それは願うんじゃないで、自分たちから何とかしないとね。自分たちで頼むばっかじゃ、変わらないと思うから、結束力。

吉田：行動をとれば、みんなで、一緒に。

林：高校の卒業のときに、「一人一人自分の将来の夢言ってください」とかって言われて、俺なんにも考えてなくて、いきおいで「浜松に住むブラジル人をまとめあげ…！浜松に住むブラジル人のリーダーになって、大活躍したいと思います」とかって言って。まあ、俺がリーダーじゃなくてもいいんだけど、そういうのがあったらいいよね、っていま思った。

#### ◇あなたにとってブラジルとは何ですか

林：微妙に時間がたってるから、最後に一言。「あなたにとってブラジルとは何ですか？」一言、二言、三言で。じゃあ、逆回りにしようか。僕にとってブラジルとは、難しいな、これ。そうですね、へんな言い方だけど“誇り”みたいなもんですね。ブラジルがあるから、いまの俺がある、みたいな感じ。いま俺がほんとに日本に生まれて、日本国籍だったら、俺一般人だった、正直。この場でこうやってリーダーしてることもなかったし。NHKとかの人と話すこともなかったし。カメラマンの人と打ち合わせすることもなかったし。俺がブラジル人だから、こういうことができたからそれは嬉しく思います。

<sup>4</sup> テレビ番組名：「カミングアウトバラエティ！！秘密のケンミン SHOW」（読売テレビ）。

米須：僕にとってブラジルとは、なんだろう、“故郷”みたいなものですね。日本で生まれたんですけど、でもブラジルにはそれなりに懐かしさっていうのを感じるんですよね。それで、その親戚がいて、大切な人もいて。大切な故郷ですね。

金城：私もブラジルのことについては、あんまり記憶にないけど、やっぱり「懐かしく感じる」って米須くん言ってたけど、そんな感じがちょっとして。やっぱりブラジルのボサノバっていう音楽とか聴いてもすごい落ち着くし。サンバとかさすがについていけなくなったりするけど、そういうブラジルの独特の静けさがある音楽っていうのが、そういうのが懐かしく感じるし。ブラジル国籍っていうか、ブラジル人であることによって、こういういろんな人と関わることができたし、正直私いまブラジル人と関わってなかったら、教育のことなんて考えてなかったと思うし、すごいデザイン一本でやってって、たぶんどんどん自分の視野が狭くなってたんじゃないかなって思うから、ほんとにブラジルは自分の中では大きな存在っていうか、ものだと思います。

中道：ブラジルは、米須さんが言ったように、故郷だし、母国でもあるし、とにかく大切です。これからもずっと関わっていきたいです。

吉田：私もここで生まれたんですけど、やっぱり全部プラスすると7年間くらいはブラジルで過ごしたし。やっぱりその時もすごく楽しかったし、いつでも受け止めてくれる家族がいたから。家族がすぐっていうか…この日本の忙しい生活っていうか、みんな親たちが工場で働いたりしてる時とか、学校で追いつくために勉強しなきゃいけない時とかに、そこから逃げ出したいっていうか、リラックスしたいと思ったら、ブラジル行けば受け止めてくれる人がいるし。ブラジル人じゃなかったら、こんな自分の意見を言えることがなかったし、ほかのことを思うことも、ほかの人のことを思うこともなかったし、自分のためだけに生きてたと思うんで。すごく誇りをもってます。

広瀬：一言で言えば“母国”で、ブラジルにしかないものがいっぱいあるし、逆に日本にしかないものもいっぱいあるから。なんかやっぱりブラジルのほうが好きっていうのが多くて。とくに、いままんかは帰りたくてしょうがないんですよ。でも帰ったら大学受験とか出来なくなるっていうか、職業につけなくなるっていうのがあって。帰りたくても帰れないっていうせいなのか、ブラジルが好きですね。

金川：私にとってブラジルは、家族と同じくらい大切に、やっぱり誇りに思うし、これからも、ブラジル人だっていうのを堂々とみんなに言っていきたいくらい大切に。

タテベ：吉田さゆりちゃんと結構似てて、意見が。ブラジルにいた期間ってほんとに赤ちゃんのころで全然覚えてないけど、私にとってはブラジルも日本も母国っていうか、ふるさと。どっちも大事だし、2つの国に挟まれてずっと生きてきた感じだから、すごいいろいろ考えることができたと思うんですよ。ずっとブラジルに住んでる人、とかずっと日本に生きてきた人とか。それとはまた違ったような考えとかたくさん持ってたと思うし、それで嫌な事とかも、いい事とかもいろいろ経験するから、人の気持ちとかちょっとは分かってあげられるかな。いろいろ教えてくれた大切なふるさとですね、ブラジルは。

権藤：私は、ブラジルっていう国と関わって生まれてきたことを誇りに思うし、ブラジルと関わって良かったって思うことが、親の仕事でも、日常生活で食べるものとか、親の考え方とか、つらい事とか分かることができるし。だから一言でいうと“誇り”だけど、でも関わってなかったらい

まの自分はないし、これからも、道ももっと開けてなかったと思うから、“誇り”です。

田中：私は、そんな一言でって言われてもなかなか何を言えればいいか分からないですけど、ブラジルはあっちは、あっちだと家族もいて、すごい結局は日本にいる、滞在してる時間のほうが長かったけど、やっぱり祖国だし。すごいあったかくて。さっきクラウジオさんが言っていたみたいに、誇りって言えるほどは、自分でも感じられないっていうのは悔しいけど、すごいブラジルは好きで、大切だと思うし。結局日本にいても、すごい自分にとってブラジルは大切だなんて思いますね。

内田：僕も、ブラジルは大切なものだと思って。やっぱり日本で生まれたけど、ブラジルにいなかったら、普通に2ヶ国語っていう言葉がしゃべれなかったし、それが自分にとって長所にもつながって、すごいあっちで学んだこともあるし、こっちで学んだこともあるから、2つとも、2つの国ともやっぱり大切な存在だったし、すごい学んできたことが、ほんとありがたい。

林：ブラジル人で良かったって感じですね。日本人だったら普通に、こんな集まることもなかったしね。素晴らしい、今日は一日だったと思います。今日の日程はとりあえず終了したんですけど。僕から感想を言うと、はじめはほんとにみんな来るのかなって思って、人集めから超大変で。でもこうやって8人集まってくれて、今日一日話が出て、やっぱり仲間みたいな存在の人たちがいるんだっていう確認ができました。また、今日のこの内容がパネル展で放送されたり、NHKで放送されたりして、これを見てくれた日本人の人たちが、今日のこの会を見て、何を思ってくれるかは分からないけど、何かメッセージとなるものは発信できたんじゃないかな、と思います。僕の中では今日は大成功だったと思います。ぜひ言いたい人？

タテベ：やっぱり、こんなに集まってくれたことがすごく嬉しいです。みんなも、ほんとちょっとずつ違った感じの意見とか聞けて、「こんな事考えてるんだ」「同じ立場でもちょっと違う」「同じこと考えてたんだ」とか。すごい、この何時間かで自分成長したかもしれない。有意義な時間、楽しかった。

米須：今回の座談会は、あんまりブラジル人の大学生のみなさんと話せて。今日ここで話せたことを、将来…。

林：まあ、ブラジルの事で悩んだりしたら、こうやって一緒に頑張ってる人たち、仲間がいるんだってことを思い出せば、ちょっと元気になるよね。バイトで落とされたりとかしても、きっと。

吉田：一応今日、教頭先生に言われたときには「えー行こうかなー」って思って、時間もないし、どうしようって思ったけど、いろいろ用事とかもあるけど、でもほんとに来てなかったらどうなったのかなって思うし、やっぱりほんとに来て後悔はしてないし、いろんな考えを持つ人に出会えたし、友達にもすごくなれると思う。自分と同じ考えを持つ人もいるし、おもしろい考えを持つ人もいるから、すごく楽しかった。

林：大学に行くと、これがすごいでかくなった感じなんだよ。ほんとにいろんな考えの人と会うきっかけが増えて、友達が増えるから、だもんでアドレスが一気に100件増える。

吉田：今日はなんか勝手に10個くらい増える。これからも、こうやってみんなで集まったり、こうやってね、全部撮影してることなく、みんなで食べに行ったりとか。やっぱりみんな悩みあると思うしさ、もっとこうやって集まる機会があったら。やっぱり普通の日本人の人と話すのとは全然違いますよね。

林：よし、とりあえず、今日はこれで終わりです。

#### (4) 感想インタビュー

##### ◇今日の感想は？

金川：いろいろな人の意見が聞けて、すごい貴重な時間が過ごせたと思います。

中道：このような機会はほかにはないと思うんですね、だからとてもいい機会でした。

広瀬：今日、自分と同じ年のブラジル人がこんなにたくさんいるっていうことにビックリしました。

権藤：みんなが自分と同じ立場じゃないから、いろんな考えが聞けて、いい機会になったと思います。

内田：今日はいろいろな人と話をする中で、自分の考えていなかったことが、考えられるようになったり、自分と同じような立場の人たちがいて、ちゃんと自分のたちのことを考えてくれてる人がいるっていうことが、すごい身近に感じる事ができたので、また自分もそういう人たちのために、なにか支援できるようなことがあれば、またやっていきたいな、と思いました。

米須：今日はとてもブラジル人の大学生と話ができ、とてもいい経験になったんで良かったです。

タテベ：いろいろな人と話せて楽しかったです。いろんな意見が聞けたんで、まとめるの苦手なんですけど、ちょっと頑張って進行しました。

田中：楽しかったです。有意義な時間で、すごいいろいろ考えさせられましたね、ほんとに。来て良かったと思います。ありがとうございました。

吉田：すごく楽しかったです。いろんな友達もできたし、いろんな人の意見も聞けたし、やっぱり自分のことだけ今まで考えてきた気がしました。これからの将来につながると思います。

金城：高校生たちの新鮮なコメントっていうか自分の考えについて聞けて、ほんとに私は良かったと思っています。自分が思ってることも伝えられたと思うし、これから一緒にいろいろなことに関わって行って、浜松でのブラジル人と日本人が仲良く暮らしていけるように、していけたらいいと思います。ありがとうございました。

林：今日は初めて同じ境遇にたっているブラジル人の子どもたちに会って、話をして、いろんな意見の違いとかもあるけど、結局はお互いみんなブラジルことが大好きなんだな、って思って。やっぱり日本のことも大好きで、日本、ブラジル両方のことを考えて生きてくれてるんだなって思って。今日はすごい感心して、僕も勉強になりました。

記録作成：

鏡田彩乃

静岡文化芸術大学 国際文化学科 4年

移民パネル写真展 学生実行委員長